

種別：学院留学（短期）

所属・職・氏名：国際学部・教授・重政 公一

研究課題：東南アジア諸国連合（ASEAN）共同体構築のなかの3つの共同体（政治・安全保障、経済、社会・文化）のもたらす域内国際関係の総合的研究

留学期間：2015年3月26日～2015年9月11日

留学先：アメリカ合衆国・ホノルル

イースト・ウエストセンター

## 研究成果概要

当初の計画ではイースト・ウエストセンターにて ASEAN 共同体構築に関する多様な影響を3つの共同体を分析することから明らかにしようと考えていた。この過程で単著執筆につながり、タイトルを『信頼醸成の国際政治学（仮題）』としていたが、留学先で研究を進めるなかで、より ASEAN に特化したテーマで執筆に取り掛かることにした。具体的にはこのテーマでの執筆は次に回し、喫緊の単著の出版としては留学研究テーマと密接に関連のある内容にし、学生にも有益なテキストとなるよう執筆に励むことに変更した。3月末に留学先に赴任してから具体的には以下の内容で大きく研究を進めた。イースト・ウエストセンターでは個室のオフィスも提供していただき、研究のテーマを深めること、また同センターでは、アジアの民主化の研究を専門にしておられる Shabbir Cheema 博士のもとで自由に研究をさせていただいたことに深く感謝している。

- ① これまでの共著の新版の出版のための書き直し
- ② 新しく単著を執筆するうえでの出版プロポーザルの作成と執筆の開始
- ③ 民間財団への新たな研究課題を遂行するための助成金の申請

以下、項目事に説明する。

- ① 吉川直人、野口和彦『国際関係理論』（勁草書房、初版は2006年）は、大学内外で国際関係論の理論のスタンダードテキストとして評価が高く、今回新たな章を追加することもあり、旧版の内容をさらに分かりやすく書き換えることになった。私の担当の「批判的国際関係理論」もこの書き換えの対象となり、ハワイ大学のハミルトン図書館を利用するなどして執筆を行い、今年11月に新版の出版の運びとなっている。

- ② 私がこれまでの二度の科研費で ASEAN 内の複数の行為アクターの織りなす相互作用を研究してきたことから、当初の単著タイトルではアジア太平洋広域を含む地域的な対象を考えてた。しかし、ASEAN 共同体構築のなかで3つの共同体の柱を個別に叙述することはこれまでの出版図書（多くは ASEAN 経済共同体に関するもの）にも見られる。しかし、私が追求してきたマルチ・トラックアプローチ（トラック1：政府間アクター、トラック2：シンクタンクなどの知的リーダーで知識共同体を形成すると考えられるもの、トラッ

ク3：市民社会アクター)を充分活用し、ASEANが共同体を構築するなかでこうしたアクターの相互作用を新しい価値観(民主主義、人権規範、法の支配など)を追求するASEANと古い変わらないASEANとの相克と克服について書かれたテーマはない。著書では新旧のASEANを弁証法的な視点で執筆を行う。こうした背景から『ASEANの文化変容-規範と現実の狭間で(仮題)』で出版プロポーザルを執筆し、北海道大学出版会と幾度のメールでのやりとりから出版を快諾していただいた。(完成稿を提出した後、同出版会の編集会議で査読、修正を要請されて、それを経てからの出版の運びとなる。)具体的な章構成は以下の通りである。

まえがき-「木」を見て「森」を見るとき

序章 現代のASEANを視る目

第一章 失望を越えて-アジア通貨危機からASEAN再生の道へ(1998~2003年)

第二章 民主化への胎動と民主主義への幕間(1999~2007年)

第三章 ASEAN憲章策定と新たな人権規範の登場(2006~2008年)

第四章 ASEAN政府間人権委員会をめぐる問題-人権はだれのものか?(2008~2013年)

第五章 ASEANにおける人間の安全保障(2008年~)

終章 規範と現実政治との狭間で-何が変容したのか

あとがき

章構成のなかですでに日本国際政治学会学会誌や関西学院大学紀要に発表してある論文も含まれており、新たに序章、第一章、第二章、第五章を書き下ろし、重点的に執筆を行い現在も執筆継続である。

③科研費以外の外部からの競争的研究資金の対象になるものとして、②に挙げた執筆中の章の内容でこれまで私が研究の目を向けていなかったメコン河の持続的発展と食の安全保障について(財)クリタ水・環境振興財団から一年間の研究のための資金を得られるようプロポーザルを書き、申請が認められた。これにより学院留学の内容を継続するうえで新たな分野の開拓が可能となった。

大学業務のなかから留学の機会を与えてくださった関西学院大学に感謝いたします。留学の成果は上に挙げた内容の公刊だと考えるので、質量伴う単著にて出版し寄贈させて頂く所存であります。